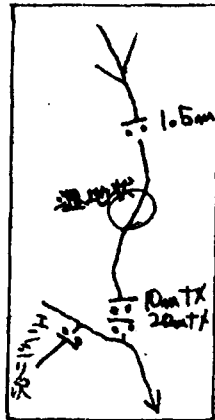


下ヨド沢(仮称) 1987年8月2日

L

ヨド沢の遡行を終え、ヤブをこいで下ヨド沢(仮称)の源頭に出て、10:20下降



開始。かなり濃いヤブをこいで沢に出たのだが、沢の中もまた濃いヤブ。苦勞して下る。15分程下ると、湿地状の草原となり、まもなく水の流れが出てくる。下る予定の沢を間違えたのではないかという不安にかられつつ下る。

やがて沢は急傾斜のナメとなる。慎重に下ったが、最後の2つのナメ滝のあたりで危険となり、ザイルを出して懸垂下降する。下りきった所が河内川本流であった。

この沢もヨド沢同様に、本流にかかるナメ滝だけで終わってしまった。

(記・)

[タイム] 下降開始(10:20)→河内川本流(11:25)→河内川橋(12:20)

エンスリ沢 1987年8月2日

L

馬尾滝沢の遡行終了後、ヤブをこぐこと20分で稜線に出た。尾根の反対側はカラマツの造林地。10分で沢に降りた。

ナメ床となって、最初は平凡であったが、途中より2mくらいの滝がポツリポツリと出てくる。どれもこれもクライミングダウン可能である。

河内川本流が近くなる頃、3m、5mと滝が連続してかかり、左岸からも8m、10mと滝が落ちている。全体的に大きく陥没したような地形である。まもなく河内川本流に出て、エンスリ沢の下降は終了となる。

(記・)

[タイム] 稜線(9:00)→沢(9:20)→河内川本流(9:50)

ヨド沢 1987年8月2日

L

河内川橋から入溪。河内川本流を1時間程遡って、ヨド沢出合へ。ヨド沢は、10m程の滝をかけて河内川本流に合流している。ヨド沢の遡行は、この滝を越えることから始まるが、これがなかなかの難物。左岸に切り立った側壁が続いているためである。この側壁を少し登ってから、上部の立木めがけてザイルを投げ、